

社会福祉学の研究者にできる ソーシャルインパクトのやり方を考える

皆さんは、研究者の使命にはどのようなものがあると思いますか。多くの方は解決すべき社会問題の真相に迫り、そこから見えてきた「新しい知見」を論文という形で発表することを思い浮かべるかもしれません。それも1例です。

今回は「ソーシャルインパクト」という概念に着目します。簡単にいえば、社会に影響を与え、社会をよくしていくことに貢献するという概念です。社会福祉学の研究者として、ソーシャルアクションやNPO法人を立ち上げ、そこを拠点に社会貢献することなどに関心を持つ方もいるでしょう。しかし、その必要性を実感していても方法が分らず、もどかしさを感じている方も多くいると思います。

そこで、今回はソーシャルインパクトを行っている研究者を招き、理論はもとより、実践や苦悩などの実際のお話をいただきます。その後、交流を行い、社会福祉学の研究者にできるソーシャルインパクトのやり方を皆で考えたいと思います。

- ▶ 日 時：2025年9月14日(日) 14:00-17:15 (無料)
- ▶ 方 法：ハイブリッド(対面場所:関西大学梅田キャンパス701号)
- ▶ 対 象：本学会の初期キャリア研究者(入会検討中の方を含む)
- ▶ プログラム



14:00-14:05 主催の説明 姜民護(関西大学准教授、日本社会福祉学会研究支援委員)

14:05-14:55 <基調講演>高良麻子氏(法政大学現代福祉学部教授)

講演タイトル: Well-beingの実現に向けたソーシャルインパクトを生じさせる研究者の役割
ソーシャルワーク博士。専門領域はジェネラリスト・ソーシャルワーク、ソーシャルアクション。日本社会福祉学会研究支援委員会の委員長(第8期)の他、多数の学会等の役員を務める。代表著書として「日本におけるソーシャルアクションの実践モデル-「制度からの排除」への対処」(日本ソーシャルワーク学会学術奨励賞(2018年))などがある。

15:05-16:05 話題提供

永野 咲氏(武蔵野大学准教授、

NPO法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス理事長)

大原裕介氏(北海道医療大学客員教授、社会福祉法人ゆうゆう理事長)

浅石裕司氏(日本福祉大学助教、NPO法人古館まちづくりの会元理事兼事務局長・会員)

16:15-17:10 グループワーク:参加者間の交流

17:10-17:15 総括 保田真希(北翔大学准教授、日本社会福祉学会研究支援委員)

17:45- 懇親会(参加費:4000円)

上記のQRコードか次のURLかでお申し込みください(申し込み〆切:2025年9月7日)。URL:
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeOqIVwOEHO2dkva3gLchHadIyil8UuBwufCxgcMUyQ36j8vQ/viewform?usp=header>

お問い合わせ先:csnet.salon@gmail.com(研究支援委員会CS-NETサロン企画担当、姜民護・保田真望)